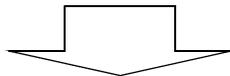


◆ 調査結果の概要及び結果に基づく学習活動や家庭学習の改善について

【小学校 国語】

<p>国語 A (知識)</p>	<p>□成果や改善が見られる内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第5学年までに学習した漢字を正しく読むこと</li> <li>・ 相手や目的に応じて自分の考えが明確に伝わるように内容を選んで話すこと</li> <li>・ 必要な情報を得るために、新聞記事を効果的に読むこと</li> </ul> <p>■課題が見られる内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文と文との意味のつながりや文章全体における段落の役割を考えながら、接続関係を整えて書くこと</li> <li>・ 国語辞典を利用して語句を調べる方法を理解すること</li> <li>・ 目的に応じて表現の効果を考えて文章を書き換えること</li> <li>・ 文の中の複数の主語と述語とを照応すること</li> </ul>	<p>国語 B (活用)</p>	<p>□成果や改善が見られる内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話し手の発言を受け止めて話し合いの方向を整理し、計画的に話し合うこと</li> </ul> <p>■課題が見られる内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目的や意図に応じて自分の考えを効果的に書くこと</li> <li>・ 伝記を比べて読み、考えを交流することで、優れた叙述を多面的にとらえること</li> <li>・ 伝記を比べて読み、書き手の違いや書き表し方の特徴に着目して、自分の考えを深めること</li> </ul>
----------------------	--	----------------------	--



**学校における学習活動の改善方策例**

- 文の中のつながりに着目して文章を書いたり、推敲したりさせる。
- 複数の文を一文に書き換えたり、長い一文を分けて書いたりさせる。
- 必要な時にいつでも辞書を使える環境をつくったり、各教科等の調べ学習などでも辞書を利用させたりする。
- 自分の考えをはっきりさせ、読み手が理解できるよう文章の構成を工夫して書くようにさせる。
- 一つの文の中で一つの主語が複数の述語に係る文や、複数の主語と複数の述語を含む文など、様々な文の構成を理解できるようにさせる。
- 書いた文章を読み合い、中心となる事柄がはっきりと伝わるか、題材の集め方や選び方は適切かなどを検討させる場を設定する。
- 相手との共通点や相違点を明確にしなが、相手のよさも取り入れて自分の考えを書かせる。

**学校の学習を生かした家庭学習の参考例**

- ※ 「はね」や「とめ」などに気を付けながら、丁寧に字を書きましょう。
- ※ 学校で学習した漢字を積極的に文章の中で使うようにしましょう。
- ※ 国語科だけでなく、他の教科の学習や日常生活の中でも辞典を使って調べてみましょう。
- ※ 文を書いたら、「何(だれ)が、何(だれ)を、どうした」などの関係がはっきりしているかに気を付けて読み直しましょう。
- ※ 伝記を読んで自分の経験や考えとの共通点や違いを見付け、自分の考えをまとめてみましょう。